



～必要な人が成年後見制度の利用に結びつくように～

おやま権利擁護通信

発行：小山町権利擁護支援センター
(小山町社会福祉協議会内)
小山町小山 75-7
小山町健康福祉会館 2階
TEL：0550-76-9906

謹賀新年 ～2022年の活動に向けて～

新型コロナウイルス感染症は、県内においてもオミクロン株の急速な広がり等により依然、予断を許さない状況が続いています。生活に課題を抱えていたり、障がい等のある方にとっては、より一層厳しく感じられることと思います。

センターでは今年も、地域の皆様が安心して暮せるようお手伝いをさせていただきます。何かお困りのことがある場合は、気軽にご相談下さい。早めの相談が早期解決につながります。センターでの対応が難しい問題であっても、適切な機関に責任を持っておつなぎします。

本年が地域の皆さまにとって幸多き年となりますようご祈念申し上げます。



第2回フォローアップ研修を開催！

令和3年11月30日に、第2回市民後見人養成のためのフォローアップ研修を開催しました。



講師の佐久間哲也氏（奥熱海クリニック院長・精神科医）から「後見活動のための精神医学」をテーマに、認知症や統合失調症等、発達障害等の特性や対応の方法等について学びました。参加者からは「支援者から見ると問題行動と思われることも、本人には一つずつ意味のある行動だと理解することができた」との感想がありました。今後の支援の質の向上につながる研修になりました。

また、第2部では、市民後見人養成のための実地研修受講生の藤曲喜雄氏から、実地研修についての報告がありました。これから実地研修を受ける方には「実地研修をイメージすることができた」との感想が寄せられました。

成年後見後見事業運営委員会 報告

令和3年12月9日、小山町社会福祉協議会成年後見事業第2回運営委員会を開催しました。委員会では、本会の法人後見事業に関する受任の可否について4件の協議を行いました。

最初に本人（被後見人）にとって、誰を後見人候補者とするのが最適なのか、いわゆる「受任者調整」を協議しました。その結果、市民後見人1件、弁護士2件、継続検討1件が後見人候補者として適しているとの結論になり、法人後見での受任は見送りとなりました。

また、2件が町長申立て、1件が本人申立てを行うことになり、権利擁護支援センターで申立ての支援を行うことになりました。

成年後見制度Q&A

Q. 成年後見人の任期はいつまでですか。

A. 通常、本人が病気などから回復し判断能力を取り戻したり、亡くなるまで、成年後見人としての仕事は続きます。申立てのきっかけとなった当初の目的（遺産分割など）が達成できたら終わりというものではありません。



成年後見制度の利用事例

Vol. 5

対象者の概要 60歳代女性・精神手帳・自宅で姉と2人暮らし

【困りごと】 同居している姉（70代）の体調が悪くなった時のことが心配

Fさんは、自宅で姉の支援を受けながら、一緒に生活をしています。姉は、最近体調が悪くなり、頻繁に病院を受診しています。Fさんは、頼りにしている姉が入院したり、施設入所した後も、自宅で自分一人で暮らせるか心配していました。

【相談・成年後見制度の申立て】

Fさんは、通っている就労継続支援B型事業所の職員に、自分の不安を相談しました。事業所の職員から権利擁護支援センターに相談がありました。

相談を受けたセンターの職員が、事業所の職員と一緒にFさんの自宅を訪問しました。Fさんの希望は、この先も住み慣れた自宅で生活することでした。そこで、センター職員から、成年後見制度を利用し、後見人等の支援を受けることを提案しました。本人も誰かに手伝って欲しいとの思いがあり利用を希望されました。

本人が申立人となり成年後見制度を利用することになりました。申立ての手続きについては、センターの職員が支援を行いました。

【制度利用後の生活】

家庭裁判所より保佐人が選任されました。保佐人は、Fさんと今後についてじっくりと話し合いました。福祉サービスの利用の援助やお金の管理は保佐人が行うことになりました。本人は将来に対する不安がなくなり安心した様子で生活しています。

～事務局から～

昨年11月に、実地研修受講生と一緒にフォローアップ研修「後見活動のために精神医学」に参加しました。日頃の支援の中で、利用者さんとの信頼関係が生まれ、支援が軌道にのったと安堵した直後に、支援の拒否があったりすると、気持ちが落ち込むこともありました。講師の佐久間先生から「本人の障がい特性からくるものなので、利用者の行動に一喜一憂する必要はない。」とのお話がありました。

そのような場合は、少し冷静になり、本人の精神面や置かれている環境に留意しながら再度支援を振り返り、時間を掛けて対応をしていきたいと思えます。

